

平成25年度「岐阜県ふるさと教育週間」実施報告書

学 校 名	岐阜県立関特別支援学校		
実 施 期 間	平成25年11月15日（金）～16日（土）		
実 施 概 要	①学校祭の公開（ステージ発表、児童生徒の作品展示、作業製品の販売） ②学校美術館の公開（児童生徒の作品展示、造形作家の作品展示）		
実 施 内 容	学習・取組の分野 <input type="checkbox"/> 自然 <input type="checkbox"/> 歴史 <input checked="" type="checkbox"/> 文化 <input type="checkbox"/> 産業 <input type="checkbox"/> その他		
	公開の方法 <input type="checkbox"/> 授業公開 <input checked="" type="checkbox"/> 成果発表 <input checked="" type="checkbox"/> 交流活動 <input type="checkbox"/> 講演会等 <input type="checkbox"/> 地域行事等参加 <input type="checkbox"/> その他		
来 校 者 数	保 護 者	210人	計 290人
	地域関係者	80人	
実 施 状 況	<p>学校祭の公開においては、あらかじめポスターを作成して校内やスクールバスに掲示するとともに、パンフレットを近隣自治会へ配布して、開催の事前PRを行った。実施については、学習集団別に児童生徒の発達段階や障がいの状態を考慮し、日頃の学習の成果として「できるようになった事柄」をステージ発表の内容として盛り込んだ劇発表を行うとともに、自発的な自己実現の場として、各持ち時間3分間の「ウェルカム・オン・ユアステージ」も行った。</p> <p>また、高等部作業学習の新たな展開として、日頃クッキーやパンを製造し、定期的に喫茶コーナーを設けている作業班ホームコースの生徒による喫茶コーナーを新設し、様々な来校者と触れ合いながら、日頃の学習成果を発表した。一方、中学部生徒会が中心となり、学校間交流をしている岐阜市立藍川中学校の生徒とともに、共同制作したフラッグアートの紹介やステージ発表を共に鑑賞した。</p> <p>学校美術館の公開では、造形作家の作品の一部を人通りの多い1階へ移動させ、より多くの人々の目に触れられるよう改善した。</p>		
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校祭の公開については、「児童生徒のできることが内容として随所に取り入れられており、教師と一体となって、とても楽しそうに発表していた」「発達段階や障がい等を考慮した発表になっており、多様で奥の深い内容で素晴らしかった」という声が聞かれた。 ・学校美術館の公開については、「校内の至る所に作品展示があり、名実ともに学校美術館となっている」「造形作家の作品だけでなく、児童生徒や教師の作品もあり、学校全体で心の教育に取り組んでいる」といった声が聞かれ、「生徒の声が響き渡る賑わいのある学校」という目指す学校像を、来校者に理解していただくことができた。 ・児童生徒数が平成19年度をピークに年々減少しており、地域住民や卒業生を含めて、いかにより多くの人を取り込み、往年の賑わいを復活させるかという課題が明確となった。 		

